

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	431	2年	後期	臨床検査学科	必修	臨床免疫学 Clinical Immunology	15	1
担当教員								
山田 武司								
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	○ ② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	○ ④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	○ ⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
<p>免疫系の細胞は、複雑な免疫ネットワークを構築して感染防御など恒常性を維持するために生体防御機能を発揮しているが、それと同時に過剰な反応や誤った反応によって生体にとっては不都合な反応も引き起こす。臨床免疫学では生体防御反応だけでなく、アレルギー反応や自己免疫疾患など異常のしくみについて学び、さらに疾患に関する様々な検査、生物化学的分析の理論と実際について学ぶ。</p>								
到達目標（授業目標）								
<p>臨床免疫学では、本来の免疫学に加えて臨床検査のための診断技術に関する側面を特に重要視する。免疫学的基礎知識に加えて臨床検査への応用面について重点的に教授する。</p> <p>① 抗原抗体反応の原理とそれに及ぼす因子・最適比について説明できる。 （沈降反応・凝集反応の分類と応用について説明できる）</p> <p>② 感染防御やその診断方法を理解し、補体結合・溶解・中和反応について説明できる。</p> <p>③ 免疫不全症について分類と原因を説明できる。</p> <p>④ アレルギー反応の発症機序について理解し、説明できる。</p> <p>⑤ 自己免疫疾患の発症機序とその分類、および自己抗体の種類について理解し、説明できる。</p>								
回	授業計画（項目・内容と方法・担当者）							
1回	免疫学検査の実際（1）・臨床の現場における様々な免疫学検査・山田武司							
2回	免疫学検査の実際（2）・自動測定法と精度管理・山田武司							
3回	血清蛋白異常症の検査・免疫グロブリン、その他の血清蛋白質・山田武司							
4回	感染症の検査（1）・細菌感染症・山田武司							

5回	感染症の検査(2)・ウイルス感染症・山田武司					
6回	腫瘍の検査・腫瘍マーカー、M蛋白血症・山田武司					
7回	自己免疫疾患の検査・組織特異的自己免疫疾患、全身性自己免疫疾患・山田武司					
8回	アレルギーの検査・I, II, III, IV, V型アレルギー・山田武司					
9回						
10回						
11回						
12回						
13回						
14回						
15回						
16回						
17回						
18回						
19回						
20回						
21回						
22回						
23回						
24回						
25回						
26回						
27回						
28回						
29回						
30回						
成績評価方法及び基準						
定期筆記試験(100%)で判定する。60点以上を合格とする。						
教科書	JAMT「臨床免疫検査 技術教本」(丸善出版)、窪田哲朗・編「免疫検査学」(医歯薬出版)、配布プリント					
参考図書等	JAMT「輸血・移植検査 技術教本」(丸善出版)					
授業時間外の学習について(授業準備のための指示)						
臨床免疫学は学生にとって比較的難解であるため、授業での理解が進むよう各項目の内容について、教科書を用いた予習・復習を少なくとも各1時間程度行う。						
関連科目						
前科目	424 微生物学	425 臨床微生物学Ⅰ	426 臨床微生物学Ⅱ	430 免疫学		
後科目	432 臨床免疫学実習	輸血移植検査学	435 輸血移植検査学実習			
実務家教員						
備考	授業内容を復習し、知識・理解を確実にした後、次の講義の概要を予習する。					